廃プラ　健康被害調査をただちに

山下よしき参院議員が国会で質問

予防原則の立場で対応を

環境大臣が答弁

6月2日、日本共産党山下よしき参院議員は、行政監視委員会で寝屋川の廃プラ問題をとりあげました。

山下よしき議員は、廃プラ施設周辺住民から寄せられた「のどが痛い」「胸が苦しい」「目がかゆい」など実態を示し、深刻な被害をもたらすおそれがある場合には対策を遅らせてはならないという『予防原則』の対応が必要ではないか、とただしました。

環境大臣は、有害物質による健康被害を未然に防止していくため、未知の物質も、想定し得ないものも含めて、予防的な取り組み、考え方での対応が重要であると、答弁しました。

山下議員は「大阪府と寝屋川市がおこなっている大気汚染調査は環境基準値以下の結果だが、この間も健康被害は広がっている。目の前で起きている健康被害を放置していいはずはない」「住民は一刻も早い行政の健康調査を望んでいる。府・市が健康調査をおこなっても法律違反にはならないか」とただしました

厚生労働大臣は、「健康調査をしても法律には抵触しない。現に健康被害を訴える方がおられれば、（保健所など）その立場で何ができるかというかたちでの行政をやるべきだ」と答弁しました。

廃プラ国会質問報告集会

行政の責任ある対応もとめる

6月7日夜、寝屋川市内で国会質問報告会を開いた山下よしき参院議員は、参加者から「住民の声がやっと国会に届いた」と喜んでいただいた。同時に「近くのマンション住民に呼吸困難や胸が痛いという人が増えている」と健康被害が拡大していることも出された。引き続き行政に責任ある対応を求めていきたいと述べています。

市駅東地区再開発

地域交流センター事業費ふえる

寝屋川市は、市駅東地区再開発事業計画の変更した概要を明らかにしました。住宅棟の戸数については地権者等の転出が増え、４戸減の２４戸になっています。

地域交流センター（文化ホール）については、「まちづくり交付金」の申請にあたり、名称が文化ホールから変更されました。

施設仕様は、客席数が３００席から５９席増席され、３階建てから４階建てに変更。

総事業費は約８億円増額。市負担額も地域交流センターなど合わせて約６億５千万円の増加です。

党議員団は、再開発事業は見直すべきと主張しています。

寝屋川市駅東地区再開発予算収支計画

①全体事業費　単位：百万円

項目	事業計画（H18. 11）	変更計画（H20. 4）	増減
支出合計	6.445	7.253	808
収入合計	6.445	7.253	808

②市負担額

項目	事業計画（H18. 11）	変更計画（H20. 4）	増減
（合計）	4.285	4.931	646

③住宅棟

項目	当初事業計画	変更計画
規模	地下1階／地上8階	地上9階
戸数	28戸	24戸

④地域交流センター

項目	当初事業計画	変更計画
規模	地下1階／地上3階	地下1階／地上4階
客席数	約300席	359席

議員日誌

寺本　とも子

6月7・8日の「西北コミセンまつり」に出席しました。

西北コミセンは、市内最初のコミニティセンターです。

現在は女性の理事長で運営委員も女性が多数活躍されています。27回目の今年は開会式に手話通訳が付くなど、きめ細かな配慮をされています。毎年のことですが、陶芸サークルで作成した茶碗でお抹茶をいただき、折り紙、木彫、手編み、書道などの展示作品を見て回ります。

参加された地域の人に声をかけて頂くなど、交流の場にもなっています。